

## ひたちなか市(茨城県):茨城交通湊線

### 地域を挙げての鉄道存続への取組み

人口	153,639 人	モード	鉄軌道
面積	99.03 km <sup>2</sup>	法令	—
人口 密度	1,551.44 人/km <sup>2</sup>	運営 主体	茨城交通



#### ■ 取組の背景

##### 地域と交通の状況

- 茨城交通湊線は、ひたちなか市の勝田駅と阿字ヶ浦駅を結ぶ路線 14.3km の地方路線である。
- 同線の沿線ではモータリゼーションの進展や少子高齢化の進行により、利用者が減少し経営状況が厳しくなっていた。このため茨城交通は平成 17 年 12 月ひたちなか市に対して、湊線を平成 20 年 3 月で廃線にする意向を示した。

##### 【事業者から廃止の申し出】

##### 活用メニュー(制度・協議会等)

- 平成 18 年 6 月「湊鉄道対策協議会」(会長:ひたちなか市長、構成:商工会議所、自治体協議会、沿線高校、市・県等)が発足し、湊線沿線の存続のための協議や利用促進に取り組んだ。

##### 【自治体独自協議会】

#### ■ 実現したサービス

##### 取組み内容

###### ➤ 市民による存続運動

- 平成 19 年 1 月、湊鉄道対策協議会構成員が中心となって市民団体「おらが湊鉄道応援団」が結成された。当応援団は湊線の利用促進活動を通して交流を深め、湊線の存続と地域の活性化に寄与することを目的としている。
- 具体的には地域住民自らノーマイカーデーを設定して湊線に乗るように推進を図る活動、茨城交通や自治体へ活性化の具体案を提案する活動、地域の自然・歴史・文化等の資産活用と周知により乗客を確保する活動、湊線の乗客増員の検討、各種地域団体等との連携及び協力などを行った。

###### ➤ 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育

- 平成 19 年 9 月、ひたちなか市立那珂湊第二小学校の 6 年生を対象に、湊線の歴史とともに、自動車と公共交通の関係やゲームを通して学ぶことで、子供たちに湊線の意義を考えてもらうことを目的とした実践授業が行われた。
- この取組みは茨城県と筑波大学の協力のもと実施され、児童は「交通すごろく」を用いて、道路渋滞の構造やモータリゼーションと公共交通機関の衰退の構造等を学んだ。児童と家族ひとりひとりの交通行動により、湊線の存続が左右されるかもしれないという理解を深めることがこの実践授業の狙いであった。

###### ➤ 鉄道の存続

- 市民レベルのさまざまな活動が実を結び、平成 19 年 3 月、茨城交通は湊線の廃止届出を見送ることを発表した。
- 県、ひたちなか市、茨城交通は、湊線を存続させることで合意したが、茨城交通単独での湊線の存続は不可能であることから、湊線を分社化して、市は国、県から最大限の支援・援助を受けながら、茨城交通と共同出資し、新たに第 3 セクター方式の「市民鉄道」として、存続させていくこととした。県はひたちなか市の出資に対して補助を行う。新設会社における茨城交通とひたちなか市の持ち株比率を概ね 1:1 とすることとなった。
- 平成 20 年 4 月に新会社のひたちなか海浜鉄道が発足する予定。

##### 【他主体連携】

■ 効果と負担

効果

【生活交通手段の確保】

- ・ 茨城交通湊線は新たな第3セクター、ひたちなか海浜鉄道によって存続されることとなった。

負担

【市町村負担】【都道府県負担】【国負担】

➤ 施設設備に対する補助

- ・ 平成20年度から平成24年度の5カ年間で約5.4億円の設備投資が必要であり、この範囲内で国、県、ひたちなか市は支援を行う。鉄道軌道輸送高度化事業費補助制度を活用し、通常1/5の国、県の補助を再生計画の認定によりそれぞれ1/3に高上げる。残る1/3の事業者負担は、ひたちなか市が補助制度を創設し、事業者の負担を軽減する。国の補助事業の対象とならない施設整備(エンジンオーバーホール等)についても、県と市が補助を行う制度を創設し、事業者の負担を軽減する。

➤ 運営に対する補助

- ・ 平成20年度から平成24年度の5カ年間で約1.2億円の経営支援が必要であり、この範囲内で県、ひたちなか市は支援を行う。ひたちなか市は固定資産税相当額の補助を行い、県・市は路線維持費、電路維持費等の修繕費について補助を行う。

■ プロセスと調整

市民アンケートの実施

【プロセス:現状把握】

- ・ 湊鉄道対策協議会構成員は市民に対するアンケートを行った(平成18年10月)。
- ・ 湊線を利用する理由としては、「運行時間が正確」、「駅が自宅や目的地に近い」に次いで、「他に利用する交通手段がない」が挙げられた。
- ・ 路線の廃止問題への対応としては、何らかの手段で湊線を維持すべきとする人は半数を超え、「県や市の支援だけでなく住民も支援し維持する」とした人も約24%にのぼった。

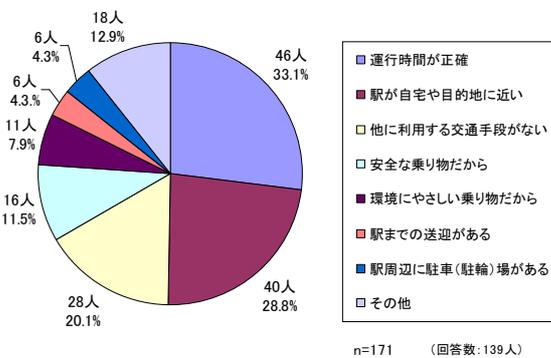


図. 湊線を利用する理由

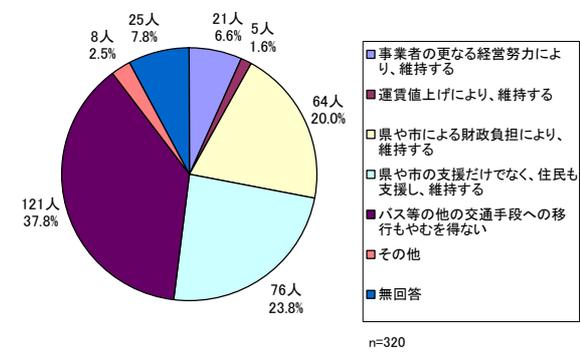


図. 廃止問題への対応

出典：ひたちなか市資料

■ 創意工夫・知見・教訓

地域を挙げての鉄道存続への取り組み

【知見:住民参加・主体性発揮】

- ・ 湊鉄道対策協議会、おらが湊鉄道応援団が中心となって、自治会、商工会、沿線の学校等を巻き込み、地域の多様な関係者が鉄道存続への取り組みを行った。
- ・ 市民レベルの存続に向けた取組みと、市、県の応分の負担により、湊線の維持が実現した。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：ひたちなか市企画調整課 電話 029-273-0111

■ 資料編

“乗って残そう湊鉄道”

# 未来へ走れ！おらが湊線



キハ205

## おらが湊鉄道 応援団員募集

このチラシをご覧になったみなさん！！

あなたはもう今日から『おらが鉄道応援団員』です。  
湊線の維持存続・利用促進につながる活動(行動)をしましょう。皆様のご理解とご支援をお願いします。

- 会費 一般(大学生以上)1口:1,000円/年、高校生1口:500円/年、小・中学生:無料
- 団員ご入金は、官製葉書又はe-mailにておらが湊鉄道応援団宛お申込をお願い致します。

～おらが湊鉄道応援団(員)のこれからの活動～

- ☆みんなの関心を高め、利用者を増やそう!!
- ☆自らノーマイカーデーをつくり湊線に乗ろう!!
- ☆茨城交通(湊鉄道)や自治体へ提案しよう!!

## おらが湊鉄道応援団

- 利用促進のアイデアを募集しています。

茨城県ひたちなか市湊門町 2-8-13  
〒311-1222 (ひたちなか商工会議所那珂湊支所内)  
TEL. 029-263-7811 FAX. 029-263-6859  
e-mail minato@hcci.jp

図. おらが湊鉄道団員募集ちらし

出典: 茨城県企画課 HP

■ 資料編



図. シンポジウムの様子

出典：おらが湊線応援団資料

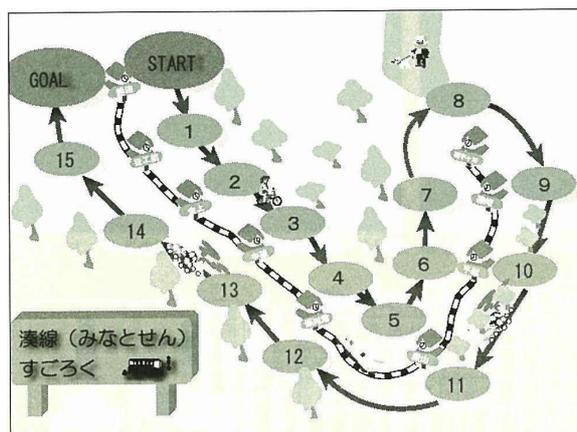


図. 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の様子

出典：藤井聡・谷口綾子「モビリティ・マネジメント入門」